

平成 24 年 10 月 15 日

政務調査研究視察報告書

報告者 永田 寛

視察日	平成 24 年 10 月 10 日 (水)
視察先	東京都 西東京市
視察内容	多摩六都科学館について
視察者	永田 寛

<多摩六都科学館>

開館時期 平成 6 年 3 月

敷地面積 11,083.89 m²

建築面積 3,631.34 m²

述べ床面積 6,860.60 m²

構造 鉄筋コンクリート、一部鉄骨造り、地上 3 階地下 2 階

専用駐車場 収容台数：普通車 120 台、大型車 10 台

(その他臨時駐車場 120 台)

コンセプト 『《科学・技術による》緑と生活の調和』



1. 施設の概要

①展示部門（5つの展示室、屋外展示）

宇宙の科学、生命の科学、生活の科学、地域の科学、地球の科学の 5 部門で構成され、実際に手を触れて体験する「ハンズ・オン」の手法による展示物を約 100 点設置している。月面の重力体験装置やスーパーカミオカンデ、スペースシャトルの展示のほか、実験ショーやワークショップなどの対話型の教育も行っている。

②プラネタリウム部門（プラネタリウム投影、大型映像上映）

- ・プラネタリウム 光学式とデジタル式のハイブリッドプラネタリウム
- ・スクリーン 直径 27.5m の傾斜型プラネタリウム
- ・客席数 244 席

世界最大級直径 27.5m のドームと、1 億 4 千万個の星が輝くプラネタリウムにより、星空と映像を組み合わせた番組を提供している。解説員による星空解説を交えながら、科学をテーマにした番組やキッズプログラム（幼児対象）、学習カリキュラムに基づく学校向けの学習投影なども実施している。

③学習関連部門（科学学習室、多目的室、実験ショーコーナー、図書コーナー、イベントホール）

科学学習室では、実験、観察、工作など幅広いテーマで教室を開催し、科学への関心を持たせるとともに、リピーターの育成のために発展的な学習の場も提供している。また、学部から研究者や大学教授などを招いて多彩なテーマで教室を開催している。

④共通部門（ミュージカルショップ、カフェテリア、エントランスホール、休憩室等）

ミュージカルショップでは、科学館オリジナルグッズや科学関連書籍、実験観察用品などを販売している。カフェテリアで食事ができ、休憩室に弁当等を持ち込むこともできる。

⑤管理部門（事務室、会議室、医務室、機会室等）

⑥付属設備（コインロッカー36台、貸出用：車椅子4台、ベビーカー6台）

2. 運営形態

平成24年4月から、多摩六都科学館組合（小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市の5市で構成）が公募し、選定した指定管理業者（株式会社乃村工藝社）による管理運営を開始している。業務内容は、教育普及活動、資料収集、調査研究といった学芸的活動と、受付案内のアテンダント業務、広報・マーケティング業務、施設・設備の保守管理業務、駐車場運営業務のほか、自主事業（カフェテリア、ショップ）など。

3. 利用状況

過去3年の年間利用者数

平成21年度 144,913人

平成22年度 154,558人

平成23年度 164,963人（前年度対比6.7%増）

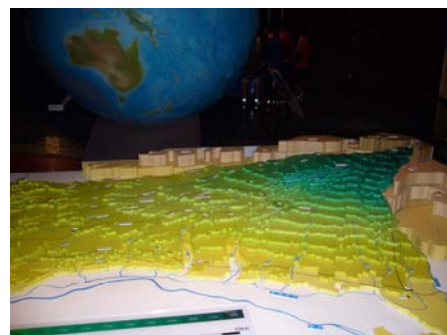
科学館の利用者は、ゴールデンウィーク、夏休み、春休みの時期に集中し、冬は大きく減少するため、激しい季節変動に対応した運営が必要となる。平成23年度は集客力の高い時期に「トリックアート展」やプラネタリウムイベントを併催し、相乗効果によって集客が大きく伸びた。

4. その他

共同事業としてのメリット

東京都に対し、5市（当初6市）共同で建設を要請し、多摩北部都市広域行政圏協議会を設置することで「広域的課題」としての認識が生まれ、大規模な建設補助を受けることができた。また、利用者の后背人口（マーケット）を拡張できる。

財政上でも運営経費を分担でき負担割合を協議することで、利用実績に即した負担が可能である。人材育成の観点からも、組合組織市からの派遣職員により、事務水準を高めることができるとともに、市側にも施設運営のノウハウを還元できる。組織間、職員個人間での交流も図れることや、ボランティア等も市域を超えて活動を広げることができる。



<所感>

平成6年にオープンした施設であり、それなりに経年を感じさせるところはあるが、子どもたちにより関心を持ってもらえるよう努力している職員の意気込みが担当者の説明の中から伝わってきた。「ロクトリポート」と題されたブログでは、企画展示やイベント、科学館周辺の様子などがたくさんの画像とともに掲載され、充実した内容で頻繁に更新されており、リピーター育成につながっている。開館後十数年経った施設でも、利用者の求める企画やイベントを的確に把握することで大幅な集客増につながっていることから、展示やイベントもその時々ニーズに合わせ柔軟に実施することが必要だと感じた。また、小学4年生以上の児童をボランティアとして募集し、低学年の子どもたちに実験を見せるなど、子どもの自主性が育てられるような取り組みもしていた。

岡崎市でも子ども科学館構想が進められているが、いずれは老朽化するハード部分のみに重点を置かず、市内にある自然科学研究機構と連携するなどして、その時々で子どもたちの興味が向けられるような企画を検討し、継続して利用者が訪れるような魅力ある科学館にしていきたい。

政務調査研究視察報告書

報告者 永田 寛

視察日	平成 24 年 10 月 11 日 (木)
視察先	東京都 港区
視察内容	救急情報の活用支援事業について
視察者	永田 寛

< 救急情報の活用支援事業 >

1. 事業内容

高齢者や障害者等が、かかりつけ医、服薬内容、緊急連絡先など救急措置に必要な情報を容器（救急医療情報キット）に収め、冷蔵庫にあらかじめ保管しておく。急病等で救急車の救急措置を受ける際、救急隊員が収められている情報を活用し、迅速かつ適切な救急活動を行うことができる。必要な救急医療情報が特定の場所に保管されていれば、的確な救命活動に役立ち、いち早く医療機関への搬送に結びつき安心した救急利用へとつながる。



① 迅速な救命措置の実施

救急出動に妻子、医療情報等をいち早く知ることにより、迅速な救命活動に役立つ。

② 詳細な個人情報の確保

事前に外部提供する必要がないため、安心して細かな情報が得られ、本人管理のため、最新の情報に変更が可能である。

③ 個人情報の保護

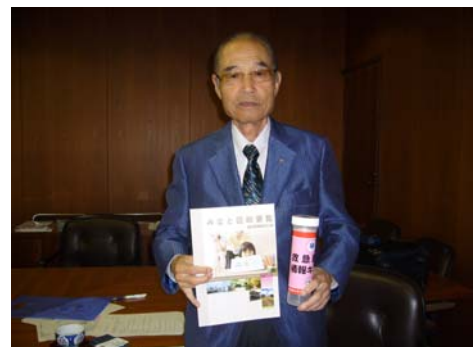
個人情報を収集しないため、個人情報の外部流失の恐れが低い。

2. 対象者

高齢者や障害者、健康上不安を抱えている人が対象で、一人暮らしに限らず、同居者がいる場合も、希望者全員にキットを配布する。配布場所は、各総合支所区民課、各いきいきプラザ、福祉会館、各高齢者相談センター。

3. 保管情報

氏名、生年月日、血液型、かかりつけ医、緊急連絡先、服薬内容等。緊急情報ステッカーを冷蔵庫と玄関に貼りつけておくことで、駆けつけた救急隊員がキットの存在を確認でき、救急時により素早い対応ができる。



<所感>

本事業は平成 20 年 5 月に港区が全国に先駆けて実施し、全国的に広がりを見せている事業である。救急時に医療情報をいち早く入手することは、迅速な救命活動のために大変重要であり、このキットにより適切な処置を行えたという報告が実際にあがってきている。より正確な情報を得るためには、キットを常に新しい情報に更新する必要があるが、一度記入したものがそのままになっていることも多く、更新を促すアナウンスを定期的にする必要があるとのことであった。

岡崎市でも三島学区福祉委員会がこの取り組みを始めている。三島学区では市販のキットではなく、100 円ショップのプラスチック容器などを材料にし、少ない経費で事業を行っている。この取り組みが市内で広がれば、救急時の医療情報の活用という本来の目的のほか、福祉委員が対象者にキットを配布することで、高齢者や障害者等の現状把握や見守り等の効果も期待できる。ただし、各学区がそれぞれ違ったルールでキットを作るのではなく、ある程度同一のルールのもとに取り組みを進める必要がある。特に玄関と冷蔵庫に貼るステッカーについては、救急隊員がすぐに認識できるように、できるだけ同じマークのものを使用しなければならない。福祉担当部署や社会福祉協議会の指導のもと、この取り組みが全市的に広がっていくことに期待する。